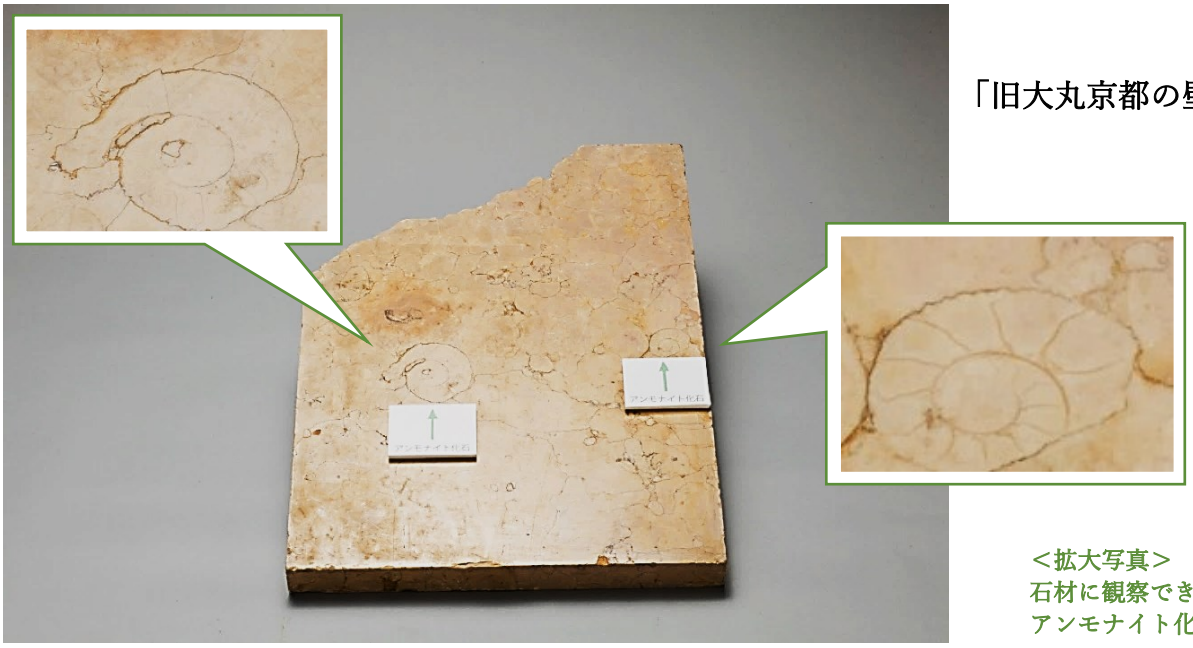
京都教育大学 教育資料館 まなびの森ミュージアム
今月の逸品
NO.73 2025.7～2025.9
京都市伏見区深草藤森町1
☎：075-644-8537
✉：manabi@kyokyo-u.ac.jp
MUSEUM OF EDUCATION



「旧大丸京都の壁石」

＜拡大写真＞
石材に観察できる
アンモナイト化石

京都市内の四条通りを歩いてみると建物の外壁や内壁，敷石など様々な岩石を石材として使っていることに気付きます。ただし，圧倒的に多く使われている石材は，赤やオレンジ，ベージュ色を呈した花こう岩ですが，その中に混じって砂岩や石灰岩（大理石）なども見ることができます。そして石灰岩（大理石）の石材中には，時折，化石と思われるものを見つけることができます。今回の「今月の逸品」では，そうした化石を含む石材を紹介します。

ここに示す石材（岩石）は，京都四条通り沿いに建つ大丸京都店の内壁面や柱として使われていたものです。大丸京都店の建物は，大正１５年（1926 年）に竣工されましたが，老朽化もあり平成１４年（2002 年）に全館が改装されました。その際に館内で使われていた石材で化石を含んでいる一部が廃棄を免れ保存されましたが，その中の一つを譲り受けたものがここに紹介する逸品です。

そもそもこの石材の元となる岩石は，イタリア北部に分布していることが知られていて，淡いオレンジ色から赤色を帯びている石灰岩（大理石）であることから，赤色石灰岩（大理石）と呼ばれています。そして，この地域の石灰岩には中生代ジュラ紀（今から 2 億 100 万年～1 億 4500 万年前）に栄えていたアンモナイト化石を多く含んでいるのも特徴です。この時代に生きていたアンモナイトが，石灰質の泥とともに海底に堆積して石灰岩となり，それが更に地中でマグマの熱や圧力により再結晶化して大理石となったものがこの石材（岩石）です。おそらく当時の石灰質の泥には鉄やマンガンの成分が含まれていて，そうした成分が酸化したことによりオレンジ色から赤色を帯びた岩石となったのでしょう。

なお，大丸京都店の高倉通り側の入口を入ると，化石を含む石材が説明とともに展示されています。また，現在でも竣工当時のままの状態で階段壁面などに化石をいくつも見つけることができます。機会があれば館内をいつもと違う視点で散策して歩くのも面白いのではないでしょうか。

執筆者：田中里志（理学科教授）

※附属図書館で展示しています。